

団体名	はりま里山研究所		
団体の所在地	姫路市	代表者名	熊谷 哲

1. 事業名	里山から里海までのフィールドにおける環境教育と研究、地域交流
2. 実施期間	平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
3. 主な実施場所	里山および里山ガーデン、はりま里山研究所
4. 活動形態	普及啓発活動 実践活動
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	<p>①【里山保全活動】森林や散策路の手入れと管理、遊具の管理や修繕などを定期的に行った。参加者 2～7 名/回。</p> <p>②【サイエンス・カフェ】環境に関する学習会を専門の学者を講師に招いて毎月開催。今年度のテーマは「自然界の放射能」「熱と環境」「ビオトープ」「兵庫の里山」「熱帯雨林」「佐渡島の水辺再生」等。参加者 10～20 名/回。一般参加者および環境活動家、大学教授など。</p> <p>③【キッズ・サイエンス・クラブ】「工作教室」「塩と熱の実験とうちエコキッズ体験」「ジャコウアゲハの学習会と食草の植付体験」を開催。参加者は小中学生 15～30 名/回。講師は小学校校長や教諭、大学教授、元科学館館長など。</p> <p>④【地域交流活動】 4 月「さくら・つつじ祭り」、5 月「オープン・ガーデン」、10 月「秋の里山祭り」、12 月「クリスマス・エコキャンドルナイト」。参加者は、幼児から大人まで 50～200 名/回。 以上の事業を実施するにあたり、団体立ち上げのためにテーブルやプリンター等の什器、事務用品等を整備し、広報のためのパンフレット、チラシ、ポスター、のぼり旗等を作成した。</p>
6. 成果・反響・反省点等	<p>①里山の保全活動により、森林の環境が保たれ、遊具の修繕により子どもも安全に遊ぶことができた。また、定期的に行うことによって、地域の方の参加を得られるようになった。</p> <p>②アットホームな雰囲気ですべての環境学習を行うことによる学習効果は高く、環境に対する意識向上に繋がった。</p> <p>③生の体験学習を行うことにより、子どもたちの心に残る環境学習を行うことができた。また、なかなかお会いすることが難しい講師と親しく交流することは、子どもにとって大変良い経験となると思われ、保護者の評価も高かった。</p> <p>④地域交流を行うことにより、里山の存在や利用価値などのアピールになり、里山環境保護に対する意識向上につながると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルを活用し、サイエンス・カフェやキッズ・サイエンス・クラブなどの学習会を開催することができた。 ・プリンターなどの什器や事務用品で広報チラシやパンフを作成してより広く PR し参加者を集めることができ、当日の書類等を充実させることにより満足度の高い学習会を開催することができた。
7. 成果物	広報チラシ、パンフレット

8. 活動写真・説明



整備した机を活用したサイエンス・カフェ



子どもむけ環境学習会にも机や材料等を利用



里山の樹木や遊具などを整備、管理